



はーと なび



社団法人 全国腎臓病協議会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-20-9 巣鴨ファーストビル 3階

2013 年 11 月 20 日発行

TEL:03(5395)2631 FAX:03(5395)2831 E-mail:sougei@zjk.or.jp

県組織を対象にした

2013 年度通院介護研修会を開催しました

全腎協は 11 月 9 日・10 日に都内で県組織を対象にした通院介護研修会を開催しました。今回はオブザーバーも合わせて 35 名が参加をし、各県組織の意見交換の場では活発な議論や各地域の実情が報告されました。

1 日目は、第 1 部として「通院送迎の基本・背景」について事務局より説明がありました。透析患者の現状、高齢者の収入、通院送迎の種類、背景等を“全腎協通院介護支援マニュアル”と一緒に確認をしました。

参加者の中より、高齢者の年金支給額が少ない（老齢年金基礎の場合、月額約 6 万円程度）や患者の高齢化、「通院送迎」の実情について詳しく知りたい等の声が上がりました。第 2 部は、送迎実施団体より事例紹介を行いました。

～事例紹介～

①「無償送迎」大島町の事例を事務局より紹介しました。

大島町では、これまで大島腎友会の会長さんが自ら代表を務めた「無償ボランティア送迎」を実施してきました。

腎友会では長年に渡り「透析患者が通院しやすい制度を作ってほしい」と行政へ交渉を続けてきた結果、行政主体（社協運営）へとなり、透析患者が通院しやすい無償移動サービスの実現化へと繋がりました。大島町の場合、人口約 8,500 名の町で、行政主体の送迎が実現したのは、“町長さんが透析患者へ理解があったこと、腎友会の活動の結果、独自の地域性を活かしたことではないか”と思います。



②「福祉有償運送」について
NPO 支援の会 ひまわり

理事長 小泉 邦昭

今年で設立 16 年目を迎える“支援の会ひまわり”では、1997 年兵庫県腎友会阪神ブロック内に透析患者を支援する部門として発足されました。理事長で当委員会の委員でもある小泉氏より団体設立（法人格取得）の経緯と具体的な内容（運営方法）等の説明がありました。会の発足から今日まで利用者さんの増加に伴い、送迎車を増やし通院支援を行ってきました。最近では患者の高齢化に伴い、利用者さんの移動・介助を担当する「見守りさん」制度を導入しました。この“見守りさん”は病院内に滞在し、利用者さんの移動や着替えのお手伝いを行います。

*現在は 24 名のドライバーと 12 名の見守りさんが活躍しています。



(小泉氏)

③「デマンドタクシー」について
長岡市福祉デマンドネットワーク研究会
代表世話人 馬場 享

デマンドタクシーが出来る生き立ちとして、新潟県では2007年に社会実験として新潟市と三条市にデマンド交通システムが導入されました。形態は路線バスが定期的に運行するものでしたが、この仕組みを「透析患者に特化したもので送迎できないか」また「安価で継続したもので利用できないか」と考案したのがきっかけでした。そうした中、街で“観光タクシー”（1回〇〇円、相乗りも可能）を見かけ、“デマンド”と“ワンコイン・相乗り可能”を組み合わせた長岡方式と言われる独自の送迎システムを考案しました。この“透析患者に特化したデマンド交通システム”を実現すべく、任意団体「長岡市福祉デマンドネットワーク研究会」を立ち上げました。メンバーは、患者会（市内4病院）、施設透析責任者（主治医、師長）、タクシー業者（タクシー協会）、市担当行政（福祉保健部）の4団体と一緒に発足しました。現在は4病院10コースと活動範囲を広げ活躍されています。



（馬場氏）

その後、各県組織との意見交換を行いました。実際に送迎事業に携わっている方の事業内容や県腎友会としてどのように送迎事業に携わっていくか、各県（行政）の送迎サービスについての報告がありました。また、今後増えていくとされる介護が必要となった場合の送迎や通院と介護を一緒に考えていく必要性があることを再確認いたしました。

2日目は、第3部として「介護保険」、
「新潟市における透析患者が入居可能な施設」の視察報告、最後に金子委員長より全腎協通院介護対策委員会の「今後の取り組み方」についての話がありました。

④「介護保険を考える」
NPO法人 富山県腎友 副会長 池田 充

昨今、少子高齢化や各家族化の社会的背景により、“老々介護”や“同居家族がいても日中独居”になる高齢者が増え続けており、「在宅生活をどうするか」が課題となっています。在宅生活を送る上での問題点は主に2つあります。1つ目は「通院」（病院に送迎がない場合、どのように通院すればいいのか）2つ目は「透析日以外の健康管理について（誰が、どのように管理するのか）また、認知症を伴うと行動の予測がつきにくく、重大な事故に巻き込まれる可能性があり大変危険であります。そして、高齢透析患者を取り巻く環境の一部に“特定除外制度廃止”や“特養・老健へに入居”“サ高住への入居”等を介護保険制度と併せて説明がありました。

また、富山県では「富山型デイサービス」と呼ばれる事業所があります。「富山型デイサービス」とは、赤ちゃんから高齢者、障害者を一緒にケアしていく活動方式で、同一施設内で福祉サービスの提供を受けます。行政の補助を受け、官民一体となり設立されています。独居高齢者の健康管理や、引きこもり問題、食事等のケアが出来る事業です。参加者より「富山型デイサービスについて大変興味がある」との声があり、富山型デイサービスの今後の展開に期待しています。



（池田氏）

続きまして、10月1日に通院介護対策委員会で視察に行きました「新潟市における特養・老健」についての報告が事務局よりありました。この取り組みについては、今から3年前、新潟県腎友会の佐々木前会長より、「在宅透析併用特養ホームの建設」への呼びかけで、開始されました。

県組織、新潟市腎友会の最重点指針として掲げられ、佐々木前会長が市議・県議に掛け合い、最後は現新潟市長の選挙公約に確立することができた事例です。

現在、建設されている施設には在宅透析ができないものの、隣接する施設で透析が可能で、料金的にも低価格（要介護5課税世帯：月額約13万～14万）で質の高いサービスを提供することが可能な施設です。

<新潟市における透析患者が入居可能な特養・老健施設 視察>

日時：10月1日（火）10：40～17：30

出席者：金子、馬場、小泉、池田、邊見、

小山（通院介護対策委員）

野口（新潟県）大垣（事務局）

見学施設

- ・医療法人社団 葵会 介護老人保健施設『葵の園・新潟島』
- ・医療法人社団 葵会「新潟中央透析クリニック」
- ・社会福祉法人 亀田郷芦沼会 特別養護老人ホーム『風の笛』
- ・社会福祉法人 かえつ福祉会 特別養護老人ホーム 『あがうら』
- ・株式会社 サンライフ舞 介護付き有料老人ホーム「サンライフ舞」
- ・舞平クリニック
（「サンライフ舞」と「舞平クリニック」は、腎友会事務局と同じ建物の為、見学）

◆通院介護対策委員会では、今後も透析患者の入居問題について議論を行い、「安心・安全・安価・安定（継続）」をキーワードに取り組み、活動をして参ります。



（葵の園・新潟島）



（風の笛）



（あがうら）



（サンライフ舞）

最後に金子委員長より、「全腎協通院介護対策委員会の今後の取り組み」について話がありました。

- 当事者、患者会として高齢者・要介護者が安心して生活できる環境作り
- これからの通院・施設対策への課題
 - *行政、透析医療機関を巻き込んだ活動
 - *運営協議会への積極的な参加
 - *関係団体との連携
 - *関係団体、行政、議会、市民などに透析患者の現状を伝える。
- 具体的には
 - *病院患者会、地域腎友会の組織強化、地域に合致した取り組み
 - *全腎協からの情報発信
(はーとなび、ホームページ)
 - *情報収集：関係団体との連携強化、情報共有
 - *患者会、患者・家族向けの情報誌発行(仮)

(参加者の感想)

- *腎友会での取り組みが重要だと感じた。
- *「送迎・介護・住居」について更に取り組みをしてほしい。
- *具体的な施策を考えてほしい。
- *在宅透析についての研修会をしてほしい。
- *病院、クリニック等が送迎を中止した時の対策を考えてほしい。
- *透析と共に終末医療についても考えてほしい。
- *介護保険、診療報酬の見直し等の変更になったことについて研修会を改正時期に実施してほしい。
- *中央省庁へ要望を実施してほしい。

参加者：総計 38 名（県組織より 27 名、理事 4 名、委員 2 名、オブザーバー 2 名、事務局 3 名）

《トピックス》

自家用有償旅客運送の事務・権限が地方公共団体へ移譲することが政府の地方分権改革有識者会議で報告されました。

これにより、自家用有償旅客運送の事務・権限の移譲について希望する市町村を対象としていく考えです。

(具体的な事務・権限の内容)

- 新規、更新、変更登録等
- 報告徴収、監査等
- 事故方向に係る届出の受理
- 有効期間の満了、業務廃止届出又は登録の取消による登録の抹消 等があります。

自家用有償旅客運送の事務・権限の移譲に係る参考資料は下記にあります。

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk3_000054.html

《事務局より》

この度、通院介護研修会を開催いたしました。各県よりたくさんのご意見、ご感想をいただきました。

中でも、透析患者の高齢化で〈送迎+介護〉がセットで通院できる環境を希望する声が多くありました。

委員会としましても、通院・介護に関する問題を一度整理し、議論していく考えです。

また、全腎協介護支援事業マニュアルの続編といたしまして、“送迎の種類”“介護保険で利用できるもの、できないもの”等を記載した「手引き」の作成を予定しています。

通院送迎については、今は元気に通っている患者さんでも、いずれは直面する問題であり、今回の研修会を通じて各県の皆様と共有できたと思います。

